

興南

夏号

東から南から…

第114号

2020年7月1日



令和2年4月復元となった日本最大の城門 鶴丸城 御楼門

興南会



天誅「コロナ禍」を どう受け止め、どう活かすか

『忘れば廃る塾』主宰 八幡正則

◆なぜ「天誅」というのか

天災には、台風みたいに予知できるもの、また予知が難しい地震や津波や火山爆発など、そして「コロナウイルス」のように全貌を掴み得ないものまで多々あります。

厄介なのは「コロナウイルス」のように発生の原因すらわからない天災です。ワクチンもなければ特效薬もない。人々は対処する術なく、ただ密室・密閉・密集の「三密」でひたすら終息を願うだけです。このコロナウイルスを、発生させ動くようにプログラムしたのはいったい何ものでしょうか。

その何ものかを、遺伝子工学の権威・村上和雄博士は、「グレイト・サムシング」Ⅱ（偉大なる何もの）と名付けています。ここでは昔から呼びなれた「天」とします。

天は人類を産み、愛し育て永續させるのを道としています。それなのに、どうして今ウイルスを発生させて人間を苦しめるのでしょうか。天意を次のように忖度しました。

—人間どもの何らかの行為が、天を怒らせ

た。しかし人間どもはそれを感じない。そこで、ショックを与えて覚らせようと、新型コロナウイルスを発生蔓延させた！

「天誅Ⅱコロナ禍」の由縁です。

◆何が天を怒らせたか

原因は、大きく二つあると思います。一つは「地球環境の破壊」であり、も一つが人間社会の「貧富格差の拡大」です。

【地球環境の破壊】

天は地球上に人類を発生させ、万物の霊長にまで育んで参りました。化育に必要な空気・水・土・草木・火などの資源を恵んでくれました。すなわち「天徳」です。人々は天徳の恵みに感謝し、大切にして「分度」を弁えながら生きなければなりません。しかし、強欲な者どもが傲岸不遜にも「自然は征服すべきもの」として際限なく食い潰し荒廃させておられます。これは天道への反逆です。

最大の環境破壊は「地球温暖化」です。原因の六割は二酸化炭素（CO₂）の影響だと言います。全世界は挙げて二酸化炭素を減ら

すべく「パリ協定」を実現させました。

温暖化は異常気象を招き、まず地球上の水の循環に影響します。結果として洪水が多発する一方、渇水や干ばつが起ります。日本の各地で最近、洪水が起きているのがその実証です。世界的な気候変動は各国の食糧生産に大きな影響を与えます。世界最大の食料輸入国日本の前途が危ぶまれるのです。

【貧富格差の拡大】

天道は公平です。生物界には「優勝劣敗」もあれば「共存同栄」もあります。優勝劣敗が過ぎれば、それを是正し共存して行くのが人道です。それが今、過去の世界史にみられないほど、強者が弱者を限りなく収奪し続けております。その結果が極少数の巨大富豪と中間層をも巻き込む大多数の貧困化です。これはまさに「タコの足食い」で、自他ともに全滅する道をつつ走っているのです。

◆天誅をどう受け止めるか

【天道は循環と分度】

人類が発生してより現在に至り、さらに未

来へ続く原理はいつたい何でしょうか。それは「循環」と報徳という「推譲」です。

読み解くヒントに二宮尊徳の「水車の教え」があります。水車がいつまでも回れるのは、半分は水の流れに従い、半分は流れに逆らう。水面を離れば車は回らないし、水中に入ってしまうば流されます。流れに従うも逆らうも共に「分度」を弁えるから回り続けます。儒教でいう「中庸」の姿です。

先祖たちは、天徳の資源を大切に扱い、子孫代々に「推譲」して参りました。おかげで私たちの今があります。なのに、現世は、自分だけ・カネだけ・今だけの「三だけ」主義にまみれております。人々は循環の大切さを見失い、分度を弁えずに子孫に「負の遺産」を残す自滅の道を辿っているのです。畜生下ではないか、と天が怒るのは尤もです。

【直線思考から循環思考へ】

「循環」に相對するのが「直線」です。直線にはスピードがあります。但し、分度を弁えないと、物に突き当たって事故を起こします。それなのに、人は「直線思考」になり易く偏りすぎます。過度のグローバル化や、資源の浪費、富の偏在など皆そうです。

人々は挙げて「循環」の大切さを思い、地球と人類を滅亡に導く直線思考から循環思考への転換を凶らねばなりません。言うは易く行うは難い道ですが、実践しなければ、次に「食べもの危機」や「エネルギー危機」など

の鉄槌が下るのが懸念されます。

◆貿易立国日本のかたち

まずは地球温暖化に関連して、貿易立国の形のままでもいいか、という課題です。

【カネによる他国領土侵略の縮小】

日本は憲法が禁ずる「武力」で他国の領土を侵略できません。だが「カネの力」で他国の領土を侵略しているように見えます。

日本の食料自給率は、三七パーセント（カロリーベース）にまで落ちました。食べ物の六割以上は外国からの輸入です。日本の耕地面積は425万ヘクタールです。そこで、日本へ食料輸出する国々が、それを生産するに要する耕地面積はどれぐらいでしょうか。試算の結果は驚くなかれ、1,200万ヘクタール以上、日本の耕地の約三倍弱です。

これはドイツ国の耕地面積1,187万ヘクタールとほぼ同じです。アジアでは、フィリッピンの540万ヘクタール+ベトナムの650万ヘクタールの耕地面積です。

これは、いふなれば、実質日本の領土ではないか、縮小すべしというわけですね。

【膨大な食料輸入と地球温暖化】

も一つ大事なのは「フード・マイルージ」です。これは、食料の輸送に伴う二酸化炭素（CO₂）排出量を減らそうというもので、輸出入重量×輸送距離の数値で表されます。

日本は世界最大の食料輸入国です。農水省

の試算によると、日本のフード・マイルージは、総量では世界中でずば抜けて大きく、国民一人当たりも第一位です。

言いたいのは、食料自給率の低下⇩食料輸入大国化は、地球温暖化に加担している。それを自覚せよということです。

【食料自給率は全消費者の問題】

食料自給率を、日本では不思議なことに生産者側の問題として扱われます。国民を飢餓させない大問題なのに、政策面では農水省に丸投げの格好で矮小化されています。

車など工業製品の輸出でカネを稼ぎ、食料は外国から買えばよい。その路線で経済大国になった日本に、平成後半から陰りが見えてきました。先行きは少子化と相まって、停滞減速は必至です。加えてコロナ禍で、世界各国は「自国ファースト」の流れとなり、食料備蓄の機運は高まるばかりです。

◆大決断して危機に備えよ

アベノミクス成長路線を安定路線へ転換すべきです。天誅「コロナ禍」は、舵を切る天与の好機です。国民の合意形成を図り、世紀の大決断をいたしましょう。

（鹿児島市 はちまん まさのり）